

エイト日技の最新技術学ぶ パソコンら パキスタン技術者招き研修会

パシフィックコンサルタンツ、エイト日本技術開発、阪神高速道路会社は8日、岡山市のエイト日本技術開発岡山本店の研修施設（第二ビル）でパキスタン国公共事業局職員12人を招き、道路構造物維持管理手法の研修会を開いた。エイト日本技術開発が保有するインフラメンテナンスの最新技術を学んだ。

講師は、エイト日本技術開発が新設した分野を問わない先進的かつ革新的技術の開発などを担うファノベイトラボ（Fラボ）に所属するネパール国籍のスバシュ・クマル・サハ氏が務めた。同社のAU V（自律型無人潜水機）を使ったソリューションサービス、全方向移動式ボート型ドローン、インフラデータ管理システム「i n M a p」、VR（仮想現実）などを使った防災教育、全天球画像と3Dモデルを組み合わせて現場を見える化する「E y e - C o n 360」



スバシュ氏の講演

などの技術、システムを紹介した。また、ドローンやVRゴーグルなどの機材も会場に用意され、参加者が日本の最新技術に触れた。

研修に参加したパキスタン技術者のムハンマド・アマール氏は「今回の研修では、品質管理システムについて多くの学びがあった。水上・水中ドローンやVR技術、全天球（360度）カメラを使ったシステムなど初めて見る技術もたくさんあった。プレゼンテーショ



日本の最新技術に触れた

ンしてもらった技術については、パキスタン政府と今後の活用について話し合っていきたい」と話した。

今回の研修は、国際協力機構（JICA）から3社が共同で受託した「パンジャブ州における道路アセットマネジメントシステム能力向上プロジェクト」の一環として開かれた。プロジェクトは、道路・橋梁維持管理に対する理解促進、体制の構築、点検・診断力の向上を図り、同州の道路、構造物の適切な優先順位に基づく維持管理の実現に貢献することを目的としている。事業実施期間は、11月まで。

